



2013年認定

熊本

阿蘇の草原の維持と持続的農業

熊本県阿蘇地域

草原の持続的な活用を通じた農業

草原は自然のままでは時間とともに森林へ移り変わりますが、阿蘇地域では草原を人が管理し続けることで日本最大級の草原を維持しています。人々は四季を通じて、草を焼く「野焼き」、牛や馬を放つ「放牧」、草を刈る「採草」を中心に草原の管理を行います。阿蘇の野焼きは表面だけを焼くため、土中の植物の種や昆虫に影響がなく、希少な動植物が数多く残っています。

草原を生かした畜産業が盛んな阿蘇ですが、酸性で養分の乏しい火山性土壌の土地を長年かけて改良し、涼しい気候風土を活かした米や多様な野菜の生産も行われています。



【あか牛】

阿蘇の自然環境に適応する在来種の褐色和種。多くの繁殖農家は農業との複合経営で、飼育頭数が10頭以下と小規模なため、草原での放牧による経営が効率的です。



絶滅危惧種に指定されている「ヒゴダイ」



草原の維持に必要な「野焼き」

